

令和元年度 在宅リハビリテーション従事者研修会 ～通所リハ編～が開催されました。

在宅リハビリテーション従事者研修会「通所リハビリテーション編」が令和2年1月25日～26日に開催されました。「通所介護編」に続き、東京をメイン会場とし地方三会場に同時 WEB 配信を行い、システム上の大きな問題もなく、全会場の受講者が研修を修了することができました。

三年目となる本研修会は、今年度「通所事業」に特化した従事者向けの研修会であり、申し込みはメイン会場、地方サテライト会場共にキャンセル待ちが発生する状況で、東京、名古屋、大阪、福岡会場をあわせ、163名(PT:108名 OT:44名 ST:5名他:6名)と多くの方にご参加いただきました。

二日間のプログラムは、講義については幅広く制度や運営、実践アプローチ、具体的な計画書の内容にまで及び、受講者からは管理、運営面での気づきや具体的なアプローチについて参考になったと高評価をいただきました。また、全体の四分の一強の時間を費やしたワークショップでは『通所リハにおける課題整理』・『通所リハにおける今後の事業運営の在り方と療法士の役割』について活発な意見交換が行われ、メイン会場だけでなくサテライト会場からもグループワークの発表があり、都市や地方からの情報、また環境の違う様々な状況の中での共感できる課題や解決策について全体で共有しました。一日目を終え、各会場では懇親会も開催され、更に親睦を深め明日に繋がる情報交換がなされました。

受講者の声やアンケートの結果より、本研修の内容についての満足度は高く 84%を超える方が再受講を希望され、また今回のような WEB 同時開催への期待の声が多くありました。通所リハビリテーションと通所介護とのすみ分けがより明確となった平成30年度改正より、通所リハビリテーション事業所に従事する療法士が役割を明確にし、あるべき姿を再確認する機会を求めていることが明らかとなりました。来年度以降も引き続き、訪問事業の枠を超え在宅、更には地域で求めに応えることができる療法士の育成のため、更に発展させた研修会となるよう準備を進めてまいります。

訪問リハビリテーション振興財団 研修班 ピリ 睦

